

吹田市内の高齢者を支援する専門職を対象にした  
これからの「住民主体」の助け合い活動の創出に向けたアンケート集計（抜粋）

アンケートの目的と対象者

今回のアンケートの目的は、第 2 回吹田市高齢者生活支援体制整備協議会での議論の中で、高齢者の支援をする専門職の立場で「地域住民」に支援してもらいたい内容を出してもらってはどうかという提案があり、これからの生活支援の検討を深めるため、地域包括支援センターや介護保険事業者連絡会役員会に協力をいただき、調査を行いました。

回収 60 名（内訳：地域包括支援センター 53 名、ヘルパー 5 名、その他 2 名）

1. 高齢者を支援する上で、介護保険サービスで担えないニーズをどのように支援していますか？

- ・ 介護保険事業所の行う介護保険外サービス 44
- ・ シルバー人材センター 42
- ・ 民間（企業、NPO など）の生活支援サービス 30
- ・ 地域住民などのボランティアに依頼 12
- ・ その他（家族、民間の配食サービス、地域の見守り、認知症の方の見守り、声かけ）

2. 「地域住民に望む支援」はどのようなものがありますか？

- ・ 安否確認の声かけ、見守り 50
- ・ ゴミ出し 42
- ・ 病院などへの移動支援 23
- ・ 電球交換 22
- ・ 買い物 16
- ・ 庭、ベランダの掃除 12
- ・ 植木の水やり 11
- ・ 自宅内の掃除 8
- ・ ペットのお世話 7
- ・ 調理、食事の片付け 2
- ・ その他（体操教室やサロンへの移動支援。電気製品の操作がわからない等のちょっとした手助け。集いの場の場所提供、公園体操のリーダー）

3.高齢者の生活支援を行ううえで、「必要とされるサービス（サポート）」はどのようなものですか？

- ・地域でのちょっとした困りごとの「お助け隊」 36
- ・身近に、気軽に集うことができる「集いの場」の拡充 35
- ・安価に利用できる「便利屋さん」 31
- ・自家用車などを使用し、「住民主体」での高齢者の買い物や通院などの移動支援 22
- ・その他（集いの場に誘って一緒に通ってくれる。訪問しておしゃべりしてくれる。）

4.高齢者の生活を支える「地域づくり」を進めるにあたり、「地域住民」と「専門職」との連携、協働について、今後どのような取り組みが必要と思いますか？

#### 【関係づくり】

・相互の活動内容を知り合う機会  
・支援が必要な方のニーズで、介護保険サービスでは行えないものも多くあるので、保険外でも安価で気軽に利用できるサービスがあるとよいと思います。地域住民が主体となって地域づくりが行われるよう、協働していくことが包括支援センターの役割だと感じています。そのためにも、地域のサロンや集いの場などに積極的に参加し、顔見知りの関係を築いていきたいと思っています。

・地域住民とその圏域内の専門職が「顔なじみ」になることが第一歩。地域住民が望む「地域」と専門職が考えることは差があるはずなので、話し合う機会を積み重ねて同じ方向に向かえるようにしていくこと。住民の中で、「主体的には出来ないけれど、お手伝いはしたい。」という声はよく聞く。住民の声を聞くこと、専門職が発信していくこと取り組みも重要だと思います。

#### 【コーディネーターの役割】

・地域住民には、専門性は求めることは難しい。専門性が必要な領域に入るなら、専門職との連携が必要とは思われるが、連携するには中心的なコーディネーターが必要。ケアマネジャーが中心となる。事例検討を通してグループワークをしてはどうか。

#### 【専門職と地域住民との連携】

・「専門職や事業所のできること」と「地域住民の望むこと」と繋ぐことができれば協働できるのかなと思います。

#### 【地域での担い手の養成】

・地域で核となりサポートして下さるリーダー養成が必要だと思います。リーダーの下、小グループを作り連携していくというのが理想です。1人ではどうしていいかわからないけど、仲間がいるとできるということも多いと思います。

・シニア世代のハローワーク的な組織を作り、うまく担い手になるようコーディネートしていく。

#### 【地域での意見交換会】

・専門職・事業所は、現在求められている事に対応するので、精一杯な部分も多いと思います。まずは、地域の方々が「こんな事ができないか。」「こんな地域にしたい。」と自分たちの地域づくりを考える事から始めた方がいいのではないかと感じています。公的な物以外でも民間で大きなビジネスチャンスになる様なアイデアも出てくるのでは。公のみで行う事には限界があります。

・定期的に地域住民と専門職が意見交換を出来る場が必要と思われる。地域住民により身近に感じてもらい、気軽に相談や連絡ができるような環境作りをしていく必要があると思われる。

・民生委員や地区福祉委員会さんは、地域の細部までよくご存じなのではないかと思えます。その方々に対し、困った事の聞き取り、アンケートを実施してはどうかと思いました。また話し合い、交流も有効だと思っています。

#### 【社会資源の見える化】

・高齢者福祉マップなど利用され便利になってきていますが、社会資源なども高齢者やケアマネがもっと見やすく活用されやすい形式で広がって浸透するような（馴染みやすい）取り組みが必要では。

#### アンケート結果を受けて

高齢者の支援に関わる専門職の多くの方が、「地域住民」に望む支援は、「安否確認の声かけ、見守り」や「ゴミ出し」などの地域住民の方に大きな負担とならないような「軽微な」お願いごとを支援してもらいたいと考えています。「必要とされるサービス（サポート）」については、これから「集いの場」の拡充を通じて、身近な地域でお互いの顔を知っている関係づくりを行い、支え合いの活動に繋げていくことが自然な流れであると思います。

そのほか「地域住民」と「専門職」との連携についての意見については、「関係づくりの強化」「地域住民と専門職が一緒になって地域づくりを考える」など多くの意見があり、参考にしていきたい。

課題としては、

- ①どのような地域単位で可能なのか。
  - ②地域の中でのどのような連携が必要なのか。
  - ③今後、地域で支え合いの活動の必要性について理解を深め、地域の諸団体と連携し、試行的に活動を行っていけるようにするにはどのようなプロセスが必要なのか。
  - ④地域の高齢者から「ゴミ出し」や「電球交換」をしてもらいたい声をどこが受け止め、どのように支え手につなげるのか。コーディネートをどのように行っていくのか。
- など協議会の中でこれからの課題やプロセスについて意見交換をしていきたいと考えています。